

様式 1 （主な取組）

「主な取組」 検証票

施策展開	1-(2)-ア	自然環境・生物多様性の保全・継承	施 策	①世界自然遺産や自然公園の適正管理
			施策の小項目名	○世界自然遺産の保全と適正管理の推進
主な取組	地域社会との協働による遺産の管理体制の構築及び運営の支援		対応する成果指標	世界自然遺産登録の更新
施策の方向	・固有性の高い生態系と世界的に見ても生物多様性の保全上重要な地域である沖縄島北部及び西表島の世界自然遺産登録地においては、その普遍的価値を維持できるよう、鹿児島県の奄美大島、徳之島とともに、自然環境の保全体制の構築及び適正な観光管理に取り組みます。			

1 取組の概要（Plan）

主な取組(アクティビティ)	実施主体	年度別計画		
		活動指標(アウトプット)		
		R7	R8	R9
世界自然遺産地域の沖縄島北部および西表島において、地域の関係者が参画する地域部会を開催するとともに、地域別行動計画の進捗状況を検証し、必要に応じ見直し等を行う。	県	地域部会の開催、行動計画の検証等		
		行動計画の検証・見直しを行うための会議の開催数(累計)		
		2回	2回(4回)	2回(6回)
担当部課【連絡先】	環境部自然保護課		【 098-866-2243 】	関連URL
				-

様式 1（主な取組）

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況

予算事業名

世界自然遺産管理運営支援業務

主な財源

実施方法

R6年度
決算額

R7年度
決算見込額

一括交付金
(ソフト)

委託

29,436

28,014

令和7年度活動内容

沖縄島北部および西表島において地域部会を各2回開催し、地域別行動計画の改定作業に着手した。

(単位: 千円)

予算事業名

世界自然遺産管理運営支援業務

R8年度

主な財源

実施方法

当初予算額

一括交付金
(ソフト)

委託

28,000

令和8年度活動計画

沖縄島北部および西表島において地域部会を各2回開催し、地域別行動計画を改定する。

活動指標名

行動計画の検証・見直しを行うための会議の開催数 (累計)

R7年度

進捗状況

活動概要

実績値

R5年度

R6年度

実績値 (A)

目標値 (B)

達成割合
A/B

—

—

2回

2回

100.0%

順調

沖縄島北部および西表島において地域部会を各2回開催し、地域別行動計画に位置付けられた各取組について進捗状況を把握するなどして、同計画の検証や見直しを行った。

進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果

会議の目標開催数2回に対し、2回開催できたことから順調と判断した。関係行政機関のみならず、地元関係者等との連絡調整、意見交換により各地域の行動計画の検証・見直しを行うことができた。各地域ごとの課題を整理し、世界自然遺産地域の適正な保全・管理に寄与した。

(2) これまでの改善案の反映状況

令和7年度の取組改善案

反映状況

○「地域別行動計画」を適切に改定するため、遺産地域の関係機関のみならず、県庁内や鹿児島県、環境省、林野庁などとの連携を強化して、地域別の課題や取組を反映させる。

○世界遺産委員会からの要請事項である観光管理、ロードキル対策、河川再生および森林管理の項目毎に、地域部会の構成機関を中心に会議を実施した。
○地域毎に状況や課題が異なることから、地域部会の構成機関と連携して議論を交わしながら、事業に取り組んだ。

様式 1 （主な取組）



様式 1 （主な取組）

3 取組の検証（Check）		4 取組の改善案（Action）	
類型	内容	類型	内容
② 他の実施主体の状況（内部要因）	昨年度から着手している「包括的管理計画」に付随する沖縄県北部および西表島の「地域別行動計画」の改訂案について、関係機関と調整したうえで、今年度末までに必要な改定を行う必要がある。	② 連携の強化・改善	昨年度の地域部会の議論を踏まえ、遺産地域の関係機関との連携を強化し、地域別の課題や取組を反映させる。改定案を今年度の地域部会での確定したうえで、「地域別行動計画」を適切に改定する。

様式 1 （主な取組）

「主な取組」検証票

施策展開	1-(2)-ア	自然環境・生物多様性の保全・継承	施 策	①世界自然遺産や自然公園の適正管理
			施策の小項目名	○世界自然遺産の保全と適正管理の推進
主な取組	国、教育機関、研究機関等と連携したモニタリング調査の実施		対応する成果指標	世界自然遺産登録の更新
施策の方向	・固有性の高い生態系と世界的に見ても生物多様性の保全上重要な地域である沖縄島北部及び西表島の世界自然遺産登録地においては、その普遍的価値を維持できるよう、鹿児島県の奄美大島、徳之島とともに、自然環境の保全体制の構築及び適正な観光管理に取り組みます。			

1 取組の概要（Plan）

主な取組(アクティビティ)	実施主体	年度別計画		
		活動指標(アウトプット)		
		R7	R8	R9
世界自然遺産地域モニタリング計画に基づき、国、県、研究機関等が遺産価値の維持管理に係るモニタリング調査を行う。	県	世界自然遺産登録地の保全状況の適切な把握及び評価		
		世界自然遺産地域モニタリング計画に基づくモニタリング調査の実施数(調査項目)(累計)		
		北部15項目、西表11項目	北部15項目(30項目)、西表11項目(22項目)	北部15項目(45項目)、西表11項目(33項目)
担当部課【連絡先】	環境部自然保護課	【 098-866-2243 】	関連URL	-

様式 1（主な取組）

2 取組の状況（Do）						
(1) 取組の進捗状況				(単位：千円)		
予算事業名 世界自然遺産保全・適正利用推進事業				予算事業名 世界自然遺産保全・適正利用推進事業		
主な財源	実施方法	R6年度 決算額		R8年度		
		R7年度 決算見込額		主な財源	実施方法	当初予算額
一括交付金 （ソフト）	委託	287,879	237,626	一括交付金 （ソフト）	委託	254,541
令和7年度活動内容				令和8年度活動計画		
国、県等により遺産価値に係るモニタリングを行う。県では、西表島における観光管理や、沖縄島北部のノネコ等の対策を実施した。				国、県等により遺産価値に係るモニタリングを行う。県では、西表島における観光管理や、沖縄島北部のノネコ等の対策を実施する。		
活動指標名	世界自然遺産地域モニタリング計画に基づくモニタリング調査の実施数（調査項目）（累計）		R7年度			進捗状況
	R5年度	R6年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B	
実績値	—	—	21項目	北部15項目	100.0%	活動概要 県では、モニタリング計画に掲げる指標に沿って沖縄島北部と西表島の両地域でモニタリング調

様式 1 （主な取組）

活動指標名	世界自然遺産地域モニタリング計画に基づくモニタリング調査の実施数（調査項目）（累計）		R7年度			順調	沖縄県北部と西表島の両地域でモニタリング調査に取り組んでおり、違法採取トラップ数や、マングース・ノネコ等の外来種生息状況などを調査した。
実績値	R5年度	R6年度	実績値 (A)	目標値 (B)	達成割合 A/B		
	—	—	21項目	西表11項目	100.0%		
進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果							
世界自然遺産地域におけるモニタリングについて、令和7年度は、令和元年度から6年度までの調査結果を用いてモニタリング計画の中間評価を行っている。中間評価を行った調査項目数が北部21項目、西表21項目だったことから、「順調」と判定した。							
(2)これまでの改善案の反映状況							
令和7年度 of 取組改善案				反映状況			
○飼い猫の適正管理やロードキル発生防止について、地域住民や来訪者に対する情報発信等を強化し、状況の改善に寄与するよう取組を継続する。				飼い猫の適正管理については、猫の飼い方講座を開催し猫の室内飼育について理解促進を図り、ロードキル発生防止については、地域住民向け報告会を開催しロードキル・密猟対策等に関する共通認識を確認する等、地域住民や来訪者に対する情報発信等を強化した。			

3 取組の検証 (Check)		4 取組の改善案 (Action)	
類型	内容	類型	内容
② 他の実施主体の状況 (内部要因)	令和8年1月に、世界自然遺産地域連絡会議においてモニタリング計画が改定されたことから、改定計画に沿ったモニタリング調査等を実施する必要がある。	⑥ 変化に対応した取組の改善	改定されたモニタリング計画に沿って、モニタリング調査等を検討・実施していく。

様式 1 （主な取組）

--	--

--	--

様式 1 （主な取組）

「主な取組」 検証票

施策展開	1-(2)-ア	自然環境・生物多様性の保全・継承	施 策	①世界自然遺産や自然公園の適正管理
			施策の小項目名	○世界自然遺産の普及啓発・人材育成
主な取組	県民や観光客への生物多様性の保全やマナー・ルールの啓発		対応する成果指標	世界自然遺産登録の更新
施策の方向	・地域住民を含めた県民や観光客に対する生物多様性の保全やマナー・ルールについて、県内外の観光事業者等と連携し、空港、港湾、地域の観光拠点のみならず、インターネットも活用しながら、啓発に取り組みます。さらに、国、教育機関、研究機関等と連携し、モニタリングや科学的な管理の基盤整備、自然環境の保全管理等の担い手としての若い世代や地域の人材育成を促進するとともに、世界自然遺産の次世代への継承を目的とした児童生徒への啓発に取り組みます。			

1 取組の概要（Plan）

主な取組(アクティビティ)	実施主体	年度別計画		
		活動指標(アウトプット)		
		R7	R8	R9
世界自然遺産地域の貴重な自然環境を次世代へ継承するため、世界自然遺産の価値とその保全の重要性について、次世代を担う子どもたちをはじめ県民等向けの普及啓発に取り組む。	県	県民や観光客への生物多様性の保全やマナー・ルールの啓発		
		ホームページによる情報発信		
		実施	実施	実施
担当部課【連絡先】	環境部自然保護課		【 098-866-2243 】	関連URL
				https://www.shizen-isan.pref.okinawa.jp/

様式 1（主な取組）

2 取組の状況（Do）

(1) 取組の進捗状況

予算事業名

世界自然遺産普及啓発事業

主な財源

実施方法

R6年度
決算額

R7年度
決算見込額

一括交付金
(ソフト)

委託

19,400

16,186

令和7年度活動内容

遺産地域を含む圏域の児童生徒を対象とする環境教育や図画コンクールの開催、世界自然遺産の認知度向上および理解醸成を図る取組等

予算事業名

世界自然遺産普及啓発事業

R8年度

主な財源

実施方法

当初予算額

一括交付金
(ソフト)

委託

18,000

令和8年度活動計画

遺産地域を含む圏域の児童生徒を対象とする環境教育や図画コンクールの開催、世界自然遺産の認知度向上および理解醸成を図る取組等

活動指標名

ホームページによる情報発信

R7年度

実績値

目標値

達成割合
A/B

進捗状況

活動概要

実績値

R5年度

R6年度

実績値 (A)

目標値 (B)

達成割合
A/B

進捗状況

活動概要

—

—

実施

実施

100.0%

順調

世界自然遺産の概要や遺産としての価値、保全の取組や来訪者向けのマナー周知、世界自然遺産フェアなどのイベント情報について情報発信した。

進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果

沖縄島北部及び西表島の自然環境や生物多様性に関する紹介ページのほか、地元への配慮事項として来訪者向けのマナー等についてウェブサイトに掲載し、関連イベント情報と併せて発信できたことから、順調と判断した。

(2) これまでの改善案の反映状況

令和7年度の取組改善案

反映状況

○ ホームページでの情報発信と併せて、地域の児童生徒を対象とした図画コンクールや環境学習を実施するとともに、パネル展等を通して広く世界自然遺産の認知度向上および理解醸成を図る。

沖縄島北部及び西表島を含む圏域の小中学生を対象とした図画コンクールを開催したほか、環境学習を各地で2回ずつ開催し、世界自然遺産の価値や保全の重要性について子どもたちの理解醸成を図った。
また、遺産地域を紹介するパネルを新たに制作し、2回のパネル展を実施した。

様式 1 （主な取組）



様式 1 （主な取組）

3 取組の検証（Check）		4 取組の改善案（Action）	
類型	内容	類型	内容
⑦ その他内部要因 （改善余地の検証等）	世界自然遺産ホームページに掲載する内容について充実を図ることで、遺産地域のことをさらに理解していただけるよう工夫する必要がある。	⑤ 情報発信等の強化・改善	遺産登録5周年を契機としたイベント情報の充実を図るほか、観光管理や保全の取組など広く周知すべき情報について網羅し、情報発信の強化を図る。

様式 1 （主な取組）

「主な取組」 検証票

施策展開	1-(2)-ア	自然環境・生物多様性の保全・継承	施 策	①世界自然遺産や自然公園の適正管理
			施策の小項目名	○世界自然遺産の普及啓発・人材育成
主な取組	児童生徒への啓発		対応する成果指標	世界自然遺産登録の更新
施策の方向	・ 地域住民を含めた県民や観光客に対する生物多様性の保全やマナー・ルールについて、県内外の観光事業者等と連携し、空港、港湾、地域の観光拠点のみならず、インターネットも活用しながら、啓発に取り組みます。さらに、国、教育機関、研究機関等と連携し、モニタリングや科学的な管理の基盤整備、自然環境の保全管理等の担い手としての若い世代や地域の人材育成を促進するとともに、世界自然遺産の次世代への継承を目的とした児童生徒への啓発に取り組みます。			

1 取組の概要（Plan）

主な取組(アクティビティ)	実施主体	年度別計画		
		活動指標(アウトプット)		
		R7	R8	R9
世界自然遺産地域の豊かな自然環境を次世代へ継承するために、世界自然遺産の価値とその保全の重要性について、地元の子どもたちへの普及啓発に取り組む。	県	世界自然遺産地域での環境教育の実施		
		小中学生を対象とした自然体験型環境学習の開催数(累計)		
		4回	4回(8回)	4回(12回)
担当部課【連絡先】	環境部自然保護課		【 098-866-2243 】	関連URL
				—

様式 1 （主な取組）

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況

予算事業名

世界自然遺産普及啓発事業

主な財源

実施方法

R6年度
決算額

R7年度
決算見込額

一括交付金
(ソフト)

委託

19,400

16,186

令和7年度活動内容

世界自然遺産地域を含む北部圏域および八重山圏域の児童生徒を対象とする環境教育や図画コンクールを開催した。

予算事業名

世界自然遺産普及啓発事業

R8年度

主な財源

実施方法

当初予算額

一括交付金
(ソフト)

委託

18,000

令和8年度活動計画

世界自然遺産地域を含む北部圏域および八重山圏域の児童生徒を対象とする環境教育や図画コンクールを開催する。

活動指標名

小中学生を対象とした自然体験型環境学習の開催数 (累計)

R7年度

実績値 (A)

目標値 (B)

達成割合
A/B

進捗状況

活動概要

実績値

R5年度

R6年度

—

—

4回

4回

100.0%

順調

世界自然遺産の価値や保全の重要性について、遺産地域周辺の小中学生を対象に、沖縄島北部および西表島で各2回、自然体験学習ツアー（自然体験型環境学習）を開催した。

進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果

目標の4回開催に対して、実績は4回開催できたことから、順調と判断した。70組の募集定員に対し、348組の応募があった。参加者からの満足度は高く、新たな気付きがあったなどの感想も寄せられるなど、理解醸成につなげることができた。

(2) これまでの改善案の反映状況

令和7年度の取組改善案

反映状況

○ 地域の状況や行事等を考慮するとともに、自然体験プログラムの内容に適した開催時期を検討する。

修学旅行等でフィールドが混雑する時期を外し、平準化に寄与できたとともに、各地域で2つのコースを用意し、対象年齢に応じた体験プログラムを用意した。

様式 1 （主な取組）



様式 1 （主な取組）

3 取組の検証（Check）		4 取組の改善案（Action）	
類型	内容	類型	内容
⑦ その他内部要因 （改善余地の検証等）	対象となる児童生徒の年齢に幅があるため、プログラム内容が適切か評価が難しい。	⑦ 取組の時期・対象 の改善	対象者を絞り込むなどして、参加者の理解向上と保全の重要性について効果的な学びとなるよう、内容を再構築する。

様式 1 （主な取組）

「主な取組」 検証票

施策展開	1-(2)-ア	自然環境・生物多様性の保全・継承	施 策	①世界自然遺産や自然公園の適正管理
			施策の小項目名	○自然保護地域の適正な地域指定・管理
主な取組	自然公園区域等の見直し（伊良部県立自然公園）		対応する成果指標	世界自然遺産登録の更新
施策の方向	・自然保護地域については、自然環境保全地域、自然公園、鳥獣保護区など、それぞれの区域拡大を含めた適正な地域指定・管理及び利用促進に取り組めます。			

1 取組の概要（Plan）

主な取組(アクティビティ)	実施 主体	年度別計画		
		活動指標(アウトプット)		
		R7	R8	R9
伊良部県立自然公園を取り巻く自然的、社会的条件が変化していることから、自然公園区域等の見直しを行う。	県	自然公園の区域等について、自然的・社会的条件の変化に応じた見直しの実施		
		伊良部県立自然公園区域等の見直し		
		地域の現況調査	関係機関調整、地元説明等	変更計画原案作成、意見照会等
担当部課【連絡先】	環境部自然保護課	【 098-866-2243 】	関連URL	—

様式 1 （主な取組）

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況

予算事業名伊良部県立自然公園見直し事業

主な財源

実施方法

R6年度
決算額

R7年度
決算見込額

県単等

委託

1,320

2,067

令和7年度活動内容

過年度に引き続き、現地調査を実施し、詳細な公園資質について把握した。

予算事業名伊良部県立自然公園見直し事業

R8年度

主な財源

実施方法

当初予算額

県単等

委託

2,194

令和8年度活動計画

過年度に引き続き、現地調査を実施し、詳細な公園資質について把握する。

活動指標名伊良部県立自然公園区域等の見直し

R5年度

R6年度

R7年度

実績値 (A)

目標値 (B)

達成割合
A/B

進捗状況

活動概要

実績値

—

—

地域の現況調査

地域の現況調査

70.0%

やや遅れ

過年度に引き続き、現地調査を実施し、詳細な公園資質について把握した。

進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果

過年度に引き続き、現地調査を実施し、詳細な公園資質について把握できたが、すべての調査項目の実施には至らなかったため、進捗状況をやや遅れとした。

(2) これまでの改善案の反映状況

令和7年度の取組改善案

反映状況

○自然的、社会的条件の変化を的確にとらえるため、時季調査（秋季）、地域の意向確認、有識者等の意見も踏まえて見直し作業を進める。

○自然的、社会的条件の変化を的確にとらえるため、過年度の環境調査を基礎に、令和7年度は秋季における植物を調査し、見直し作業を進めた。

様式 1 （主な取組）



様式 1 （主な取組）

3 取組の検証（Check）		4 取組の改善案（Action）	
類型	内容	類型	内容
④ 社会・経済情勢の変化（外部環境の変化）	自然的、社会的条件の変化を見直しに反映するとともに、適切な管理に向けた環境整備を図る。	⑥ 変化に対応した取組の改善	自然的、社会的条件の変化を的確にとらえるため、引き続き関係機関との協議・調整、地元説明を踏まえて見直し作業を進め、公園計画変更案および管理用図面に反映する。

様式 1 （主な取組）

「主な取組」 検証票

施策展開	1-(2)-ア	自然環境・生物多様性の保全・継承	施 策	①世界自然遺産や自然公園の適正管理
			施策の小項目名	○自然保護地域の適正な地域指定・管理
主な取組	自然公園区域等の見直し（沖縄戦跡国定公園）		対応する成果指標	世界自然遺産登録の更新
施策の方向	・自然保護地域については、自然環境保全地域、自然公園、鳥獣保護区など、それぞれの区域拡大を含めた適正な地域指定・管理及び利用促進に取り組めます。			

1 取組の概要（Plan）

主な取組(アクティビティ)	実施 主体	年度別計画		
		活動指標(アウトプット)		
		R7	R8	R9
沖縄戦跡国定公園を取り巻く自然的、社会的条件が変化していることから、自然公園区域等の見直しを行う。	県	自然公園の区域等について、自然的・社会的条件の変化に応じた見直しの実施		
		沖縄戦跡国定公園区域等の見直し		
		変更県案作成、県審議会諮問、国へ申出	—	—
担当部課【連絡先】	環境部自然保護課		【 098-866-2243 】	関連URL
				—

様式 1 （主な取組）

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況

予算事業名

沖縄戦跡国定公園見直し事業

主な財源

実施方法

R6年度
決算額

R7年度
決算見込額

県単等

委託

6,992

5,445

令和7年度活動内容

関係機関との協議・調整、地元説明、指定書・計画書の変更案作成等を実施した。

(単位：千円)

予算事業名

沖縄戦跡国定公園見直し事業

R8年度

主な財源

実施方法

当初予算額

県単等

委託

4,000

令和8年度活動計画

指定書・計画書の変更県案作成等を実施し、県審議会への諮問、国への申出を行う。

活動指標名

沖縄戦跡国定公園区域等の見直し

R7年度

実績値 (A)

目標値 (B)

達成割合
A/B

進捗状況

実績値

R5年度

R6年度

—

—

関係機関調整、変更案作成等

変更県案作成、県審議会諮問、国へ申出

70.0%

やや遅れ

活動概要

関係機関との協議・調整、地元説明、指定書・計画書の変更案作成等を実施した。

進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果

関係機関との協議・調整、地元説明、指定書・計画書の変更案作成等に取り組み、令和8年度の活動計画につなげることができた。しかし、これらの取り組みに時間を要し県審議会への諮問、国への申出に至らなかったため、進捗状況をやや遅れとした。

(2) これまでの改善案の反映状況

令和7年度の取組改善案

反映状況

○自然的、社会的条件の変化を的確にとらえるため、関係機関との協議・調整、地元説明を踏まえて指定書・計画書の変更案の作成作業を進める。

○自然的、社会的条件の変化を的確にとらえるため、地元市町からの見直し要望について協議・調整し、地元自治会への説明・意見聴取を踏まえて指定書・計画書の変更案を作成した。

様式 1 （主な取組）



様式 1 （主な取組）

3 取組の検証（Check）		4 取組の改善案（Action）	
類型	内容	類型	内容
④ 社会・経済情勢の変化（外部環境の変化）	自然的、社会的条件の変化を見直しに反映するとともに、適切な管理に向けた環境整備を図る。	⑥ 変化に対応した取組の改善	自然的、社会的条件の変化を的確にとらえるため、引き続き関係機関との協議・調整、地元説明を踏まえて見直し作業を進め、公園計画変更案および管理用図面に反映する。

様式 1 （主な取組）

「主な取組」 検証票

施策展開	1-(2)-ア	自然環境・生物多様性の保全・継承	施 策	①世界自然遺産や自然公園の適正管理
			施策の小項目名	○自然保護地域の適正な地域指定・管理
主な取組	鳥獣保護区の指定		対応する成果指標	世界自然遺産登録の更新
施策の方向	・自然保護地域については、自然環境保全地域、自然公園、鳥獣保護区など、それぞれの区域拡大を含めた適正な地域指定・管理及び利用促進に取り組めます。			

1 取組の概要（Plan）

主な取組(アクティビティ)	実施主体	年度別計画		
		活動指標(アウトプット)		
		R7	R8	R9
本県に生息する鳥獣および飛来する鳥の保護を図り、本県の生物多様性の保全に寄与することを目的に、鳥獣の保護のために必要と認められる地域について鳥獣保護区等に指定し、管理する。	県	鳥獣保護区の新規指定及び更新、特別保護地区の新規指定及び再指定		
		鳥獣保護区の新規指定、更新箇所数(累計)		
		新規指定、更新手続きに向けた整理作業	2箇所	1箇所(3箇所)
担当部課【連絡先】	環境部自然保護課		【 098-866-2243 】	関連URL —

様式 1 （主な取組）

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況

予算事業名

—

主な財源

実施方法

R6年度
決算額

R7年度
決算見込額

県単等

直接実施

令和7年度活動内容

既存の鳥獣保護区の管理を行うとともに、第13次鳥獣保護管理計画の保護区指定候補地の調整を進めるため、市町村との意見交換や調査等を実施した。

予算事業名

—

R8年度

主な財源

実施方法

当初予算額

県単等

直接実施

令和8年度活動計画

既存の鳥獣保護区の更新作業を行うとともに、第13次鳥獣保護管理計画の保護区指定候補地の指定を進めるため、指定手続き作業を行う。

活動指標名	鳥獣保護区の新規指定、更新箇所数（累計）		R7年度			進捗状況	活動概要
実績値	R5年度	R6年度	実績値 (A)	目標値 (B)	達成割合 A/B		
	—	—	新規指定、更新手続きに向けた整理作業	新規指定、更新手続きに向けた整理作業	100.0%	順調	鳥獣保護区候補地の具志頭と米須について、市町村担当課への事前説明と意見交換を行った。また、令和8年度の鳥獣保護区更新に向けて、那覇市へは事前説明と計画書（案）の事前照会、嘉手納町へは事前説明をした。

進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果

新規指定、更新手続きに向けた整理作業を予定通り行ったため、順調としている。

(2) これまでの改善案の反映状況

令和7年度の取組改善案

新規指定地区の鳥獣の生息状況について、鳥獣保護管理員等と連携しながら最新の情報を収集する。また、市町村等関係機関意見との調整を綿密に行い、精査し、必要な対応を検討する。

反映状況

鳥獣保護区の更新作業及び新規地区の指定にあたっては、鳥獣保護管理員等と連携しながら当該地区の自然環境や鳥獣生息状況の最新情報を収集しつつ、その状況および鳥獣保護区の趣旨を地元市町村に十分に理解してもらい、そのうえで賛否の判断を仰ぎながら推進を図った。

様式 1 （主な取組）



様式 1 （主な取組）

3 取組の検証（Check）		4 取組の改善案（Action）	
類型	内容	類型	内容
② 他の実施主体の状況（内部要因）	鳥獣保護区指定を推進するためには、保護を必要とする鳥獣の生息地について利害関係者の理解を得る必要があるため、利害関係者からの意見を把握し、取り組む必要がある。	② 連携の強化・改善	市町村だけではなく、利害関係者（関係する事業者、民間団体または県民）との調整を十分に行い、必要な対応を行う。

「主な取組」 検証票

施策展開	1-(2)-ア	自然環境・生物多様性の保全・継承	施 策	①世界自然遺産や自然公園の適正管理
			施策の小項目名	○自然公園施設の適正管理と利用増進
主な取組	自然公園施設の整備		対応する成果指標	世界自然遺産登録の更新
施策の方向	・ 自然公園施設の適正な管理及び利用増進については、既存施設の計画的かつ効率的な修繕や更新など効果的な施設整備に取り組みます。			

1 取組の概要（Plan）

主な取組(アクティビティ)	実施 主体	年度別計画		
		活動指標(アウトプット)		
		R7	R8	R9
自然公園の利用増進と適正利用を図るため、自然公園施設の整備を実施する。	県	自然公園の利用促進、県民の保健、休養、教化に資する休憩所や公衆トイレ等の施設整備		
		自然公園施設整備に係る取組		
		設計業務、関係機関協議、施設整備	設計業務、関係機関協議、施設整備	設計業務、関係機関協議、施設整備
担当部課【連絡先】	環境部自然保護課		【 098-866-2243 】	関連URL
				—

(単位：千円)

予算事業名	自然公園施設整備事業費（補助事業）		
R8年度			
主な財源	実施方法		当初予算額
一括交付金（ハード）	直接実施		85, 000
令和8年度活動計画			
運天森園地休憩所の建築工事、具志頭園地公衆トイレの設計業務および建築工事、大度園地休憩所の建築工事を実施する。			
予算事業名	自然公園施設整備事業費（単独事業）		
R8年度			
主な財源	実施方法		当初予算額
県単等	直接実施		4, 018
令和8年度活動計画			
県立自然公園内の転落防止柵や休憩所の修繕を実施する。			

活動指標名	自然公園施設整備に係る取組		R7年度			進捗状況	活動概要
実績値	R5年度	R6年度	実績値 (A)	目標値 (B)	達成割合 A/B		
	—	—	関係機関協議、施設修繕	設計業務、関係機関協議、施設整備	50.0%	大幅遅れ	運天森園地休憩所の建築工事および具志頭園地公衆トイレの設計業務が入札不調となり実施できなかった。予算は次年度へ繰越した。また、具志頭園地（海浜地区）の休憩所および公衆トイレの修繕を実施した。

様式 1 （主な取組）

進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果	
具志頭園地の休憩所および公衆トイレの修繕を実施したが、沖縄戦跡国定公園の運天森園地休憩所の建築工事および具志頭園地公衆トイレの設計業務が入札不調となり実施できなかったことから進捗状況を大幅遅れとした。	
(2) これまでの改善案の反映状況	
令和7年度の取組改善案	反映状況
○発注時や履行中の課題等について、関係機関（土木建築部施設建築課）と連携し、進捗状況の共有や課題の抽出、解決策の検討により、円滑な執行に努める。	○関係機関（土木建築部施設建築課）と連携して、入札参加資格の要件設定の見直しなどを行った。結果として契約につながらなかったが、入札不調の課題解決にあたり、円滑な執行に努めた。

3 取組の検証（Check）		4 取組の改善案（Action）	
類型	内容	類型	内容
① 県の制度、執行体制（内部要因）	民間建築需要の増加、資材単価の高騰、技術者不足が要因と考えられ、入札不調が発生している。	① 執行体制の改善	関係機関（土木建築部施設建築課）と調整し、市場に合った適正な積算単価の採用や発注時期の前倒しなどに努める。

「主な取組」 検証票

施策展開	1-(2)-ア	自然環境・生物多様性の保全・継承	施 策	②希少野生動植物種や沖縄固有種の保護対策、外来生物対策の推進
			施策の小項目名	○希少野生動植物の生態、生息域、個体数の現状把握、脅威となる外来種の防除
主な取組	指定希少野生動植物種のモニタリング		対応する成果指標	重点対策種等の排除・根絶地域数
施策の方向	・県内に生息する希少生物種の生態、生息域、個体数等の現状を的確に把握するとともに、増減の原因等の分析を行い、効果的な保護対策に取り組めます。			

1 取組の概要（Plan）

主な取組(アクティビティ)	実施主体	年度別計画		
		活動指標(アウトプット)		
		R7	R8	R9
県内に生息・生育する希少な野生動植物の保護を図るため、沖縄県希少野生動植物保護条例の運用や普及啓発、希少種のモニタリング調査、検討委員会の開催等を実施する。	県	モニタリングの実施、外来種による希少種への影響の確認		
		指定希少野生動植物種のモニタリング地点数(累計)		
		30地点	30地点(60地点)	30地点(90地点)
担当部課【連絡先】	環境部自然保護課	【 098-866-2243 】	関連URL	—

様式 1 （主な取組）

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況

予算事業名	希少野生生物保護推進事業			
主な財源	実施方法	R6年度 決算額	R7年度 決算見込額	
県単等	委託	15,018	14,384	
令和7年度活動内容				
モニタリング調査や普及啓発、検討委員会の開催等に取り組むとともに、指定希少野生動植物種の保護増殖事業計画に基づき、保護増殖事業を実施した。				

(単位：千円)

予算事業名	希少野生生物保護推進事業		
R8年度			
主な財源	実施方法	当初予算額	
県単等	委託	14,605	
令和8年度活動計画			
引き続きモニタリング調査や普及啓発、検討委員会の開催等に取り組むとともに、指定希少野生動植物種の保護増殖事業を実施する。			

活動指標名	指定希少野生動植物種のモニタリング地点数（累計）		R7年度			進捗状況	活動概要
実績値	R5年度	R6年度	実績値 (A)	目標値 (B)	達成割合 A/B		
	—	—	68地点	30地点	100.0%	順調	希少野生生物保護推進事業において、指定希少野生動植物種のモニタリング調査を沖縄島、伊平屋島および久米島で実施した。

様式 1 （主な取組）

進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果	
指定希少野生動植物種のナゴラン、オキナワヤマタカマイマイおよびシラユキヤマタカマイマイについて、保護増殖に取り組む必要があったため令和6年度に保護増殖事業計画を策定し、重点的に生息状況調査を実施した。活動指標の指定希少野生動植物種のモニタリング地点数(累計)については、目標30件に対し実績68件のため、「順調」と判定した。	
(2)これまでの改善案の反映状況	
令和7年度の取組改善案	反映状況
○ ヤマタカマイマイ2種のモニタリング調査について重点的に取り組む必要があるため、検討委員会において調査地点等を検討し、ヤマタカマイマイ保護施策を推進する。 ○ ナゴランの残存する生育地を保全するため、地元でシンポジウムを開催する等、地元協議会との連携に取り組む。	○ ヤマタカマイマイ2種のモニタリング調査について重点的に取り組む必要があるため、検討委員会において調査地点等を検討し、ヤマタカマイマイ保護施策を推進した。 ○ 地元協議会メンバーへヒアリングを実施し、ナゴランの残存する生育地を保全するための課題を抽出した。

3 取組の検証 (Check)		4 取組の改善案 (Action)	
類型	内容	類型	内容
① 県の制度、執行体制 (内部要因)	ヤマタカマイマイ2種については、ヤエヤママドポタルの捕食被害が著しいことから、モニタリング調査を重点的に実施する必要がある。	① 執行体制の改善	ヤマタカマイマイ2種について、ヤエヤママドポタルの捕食被害が深刻な個体群を保護増殖事業に追加する等、ヤマタカマイマイ保護施策を推進する。
① 県の制度、執行体制 (内部要因)	ナゴランに関して、残存する生育地の保全について、普及啓発を推進する必要がある。	① 執行体制の改善	地元や観光客への認知を高めるため、港でのポスター展示等、普及啓発を推進する。

様式 1 （主な取組）

「主な取組」検証票

施策展開	1-(2)-ア	自然環境・生物多様性の保全・継承	施 策	②希少野生動植物種や沖縄固有種の保護対策、外来生物対策の推進
			施策の小項目名	○希少野生動植物の生態、生息域、個体数の現状把握、脅威となる外来種の防除
主な取組	野生鳥獣等生息状況調査		対応する成果指標	重点対策種等の排除・根絶地域数
施策の方向	・県内に生息する希少生物種の生態、生息域、個体数等の現状を的確に把握するとともに、増減の原因等の分析を行い、効果的な保護対策に取り組めます。			

1 取組の概要（Plan）

主な取組(アクティビティ)	実施主体	年度別計画		
		活動指標(アウトプット)		
		R7	R8	R9
本県に生息している野生鳥獣等の生息状況(生息域、個体数等)を把握するために、新規指定候補地および既存の鳥獣保護区において調査を実施する。	県	鳥獣保護区指定のために必要な鳥獣の生息状況と生息環境把握のための調査		
		調査実施保護区における調査数(内訳)		
		5地域(新規1地域、継続4地域、累計5地域)	5地域(継続5地域)	5地域(継続5地域)
担当部課【連絡先】	環境部自然保護課	【 098-866-2243 】		関連URL
				—

様式 1（主な取組）

2 取組の状況（Do）

(1) 取組の進捗状況

予算事業名

鳥獣保護行政費

主な財源

実施方法

R6年度
決算額

R7年度
決算見込額

県単等

直接実施

10,982

9,397

令和7年度活動内容

鳥獣保護管理員等を活用して既存の鳥獣保護区及び保護区指定候補地の生息状況調査を実施した。

予算事業名

鳥獣保護行政費

R8年度

主な財源

実施方法

当初予算額

県単等

直接実施

10,194

令和8年度活動計画

引き続き、鳥獣保護管理員等を活用して既存の鳥獣保護区及び保護区指定候補地生息状況調査を実施する。

活動指標名

調査実施保護区における調査数
(内訳)

R7年度

実績値 (A)

目標値 (B)

達成割合
A/B

進捗状況

活動概要

実績値

R5年度

R6年度

18地域

5地域 (新規1地域、継続4地域、累計5地域)

100.0%

順調

鳥獣保護管理員等を活用して既存の鳥獣保護区及び保護区指定候補地の鳥獣生息状況調査等を行うとともに、保護区指定候補地を視察した。

進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果

既存の鳥獣保護区及び保護区指定候補地における鳥獣の生息状況調査数について、目標5地域に対し、18地域調査したことから「順調」と判断した。

(2) これまでの改善案の反映状況

令和7年度の取組改善案

反映状況

保護区指定候補地の最新の生息状況に関する情報収集に努め、既存の鳥獣保護区を適正管理するには、鳥獣保護管理員と連携し継続的に生息状況調査を実施していく。

保護区指定候補地については、委託業務により鳥獣生息状況等の調査を実施し、最新の生息状況に関する情報収集を行った。また、既存の鳥獣保護区においては、鳥獣保護管理員により生息状況調査を行い、管理を図った。

様式 1 （主な取組）



様式 1 （主な取組）

3 取組の検証（Check）		4 取組の改善案（Action）	
類型	内容	類型	内容
② 他の実施主体の状況（内部要因）	鳥獣保護区を新規指定及び適正管理するには、鳥獣保護管理員と連携し、生息状況調査を実施する必要がある。	② 連携の強化・改善	保護区指定候補地の最新の状況把握、既存の鳥獣保護区を適正管理するには、引き続き、鳥獣保護管理員と連携し継続的に生息状況調査を実施していく。

様式 1 （主な取組）

「主な取組」 検証票

施策展開	1-(2)-ア	自然環境・生物多様性の保全・継承	施 策	②希少野生動植物種や沖縄固有種の保護対策、外来生物対策の推進
			施策の小項目名	○希少野生動植物の生態、生息域、個体数の現状把握、脅威となる外来種の防除
主な取組	レッドデータおきなわの改訂		対応する成果指標	重点対策種等の排除・根絶地域数
施策の方向	・県内に生息する希少生物種の生態、生息域、個体数等の現状を的確に把握するとともに、増減の原因等の分析を行い、効果的な保護対策に取り組めます。			

1 取組の概要（Plan）

主な取組(アクティビティ)	実施主体	年度別計画		
		活動指標(アウトプット)		
		R7	R8	R9
平成28、29年度発刊の第3版レッドデータブックについて、令和8年度までに改訂・公表を目指し、令和4年度から8年度の5年間で各種委員会の開催、文献調査や現地調査の実施等により、改訂作業を進める。	県	改訂作業(文献調査・現地調査、各種委員会の開催)の実施		
		現地調査の実施数(累計)		
		1回	1回(2回)	—
担当部課【連絡先】	環境部自然保護課	【 098-866-2243 】	関連URL	https://www.okinawa-ikimono.com/reddata/

様式 1 （主な取組）

2 取組の状況（Do）

(1) 取組の進捗状況

予算事業名

沖縄県版レッドデータブック改訂業務

主な財源

実施方法

R6年度
決算額

R7年度
決算見込額

県単等

委託

13,653

14,808

令和7年度活動内容

各分科会による現地調査、掲載種の評価、執筆等の編集作業を行った。また、各種委員会において編集作業に関する情報共有や課題検討等を行った。

(単位：千円)

予算事業名

沖縄県版レッドデータブック改訂業務

R8年度

主な財源

実施方法

当初予算額

県単等

委託

15,000

令和8年度活動計画

各分科会による掲載種の評価、執筆等の編集作業を行い、改訂する。

活動指標名

現地調査の実施数（累計）

R7年度

進捗状況

活動概要

実績値

R5年度

R6年度

実績値(A)

目標値(B)

達成割合
A/B

—

—

16回

1回

100.0%

順調

掲載種の評価及び原稿の執筆のため、各生物分類群の分科会において、現地調査を合計16回実施した。

進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果

5カ年計画の3年目において、本改訂に関する各種委員会を開催し、編集方針等の策定及び希少種の生息・生育状況に係る現地調査も目標値を超えて実施できたことから、進捗状況は順調とした。

(2) これまでの改善案の反映状況

令和7年度の取組改善案

反映状況

希少種の生息・生育状況の変化を把握するため、文献調査や現地調査を実施し、情報収集を継続する。また、保全が必要な生息地等を選定する必要がある。

新たな評価対象分類群であるサンゴ類・軟体動物分科会を含む、12分科会において文献調査や現地調査を実施し、最新の情報を収集した。その結果、掲載種等の増加が見込まれている。

様式 1 （主な取組）



様式 1 （主な取組）

3 取組の検証（Check）		4 取組の改善案（Action）	
類型	内容	類型	内容
④ 社会・経済情勢の変化（外部環境の変化）	開発行為や外来種の侵入・定着等により、希少種への影響が考えられる。	⑥ 変化に対応した取組の改善	希少種の生息・生育状況の変化を把握するため、文献調査や現地調査を実施し、情報収集を継続する。また、保全が必要な生息地等を選定する。
① 県の制度、執行体制（内部要因）	専門家による、レッドデータブックに掲載する種及び保全が必要な生息地・生育地に関する執筆作業が遅れると、改訂スケジュールが遅れてしまう。	① 執行体制の改善	専門家による執筆期限を前倒しし、進捗管理を行うことにより改訂に遅れが生じないようにする。

様式 1 （主な取組）

「主な取組」検証票

施策展開	1-(2)-ア	自然環境・生物多様性の保全・継承	施 策	②希少野生動植物種や沖縄固有種の保護対策、外来生物対策の推進
			施策の小項目名	○希少野生動植物の生態、生息域、個体数の現状把握、脅威となる外来種の防除
主な取組	沖縄島北部における希少種の回復実態調査の実施		対応する成果指標	重点対策種等の排除・根絶地域数
施策の方向	・県内に生息する希少生物種の生態、生息域、個体数等の現状を的確に把握するとともに、増減の原因等の分析を行い、効果的な保護対策に取り組めます。			

1 取組の概要（Plan）

主な取組（アクティビティ）	実施主体	年度別計画		
		活動指標（アウトプット）		
		R7	R8	R9
沖縄島北部におけるマングース対策等の効果による希少種の回復実態を把握するため、ヤンバルクイナ等希少種の分布状況調査を実施する。	県	マングース対策の一環として、ヤンバルクイナやノグチゲラ等の分布状況調査の実施		
		希少種回復実態調査の実施種数（内訳）		
		6種（継続6種）	6種（継続6種）	6種（継続6種）
担当部課【連絡先】	環境部自然保護課	【 098-866-2243 】		関連URL —

様式 1 （主な取組）

2 取組の状況（Do）

(1) 取組の進捗状況

予算事業名

マンガース対策事業

主な財源

実施方法

R6年度
決算額

R7年度
決算見込額

一括交付金
(ソフト)

委託

132, 035

100, 119

令和7年度活動内容

やんばる地域において、定点観察、自動撮影カメラ等により、その地域に生息する希少な鳥類・哺乳類・両生類・爬虫類の生息状況を調査した。

予算事業名

マンガース対策事業

R8年度

主な財源

実施方法

当初予算額

一括交付金
(ソフト)

委託

114, 794

令和8年度活動計画

やんばる地域において、定点観察、自動撮影カメラ等により、その地域に生息する希少な鳥類・哺乳類・両生類・爬虫類の生息状況を調査する。

活動指標名

希少種回復実態調査の実施種数
(内訳)

R5年度

R6年度

実績値

—

—

R7年度

実績値 (A)

目標値 (B)

達成割合
A/B

10種

6種 (継続6種)

100. 0%

進捗状況

順調

活動概要

希少な鳥類、哺乳類、両生類、爬虫類の分布状況調査を実施した。

進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果

目標値6種に対して実績値10種であり、目標を達成したことから取組は順調に進捗している。

(2) これまでの改善案の反映状況

令和7年度の取組改善案

反映状況

○限られた予算の範囲で調査対象種の選定や調査サイクル等を検討し、効率的に調査を実施していく。
○世界自然遺産地域を含む、第一北上防止柵以北におけるマンガースの完全排除等、外来種対策の取り組みを引き続き推進していく。

○検討委員会等において専門家の意見を取り入れながら、調査対象種の選定や調査サイクル等を検討し、効率的な調査を実施した。
○引き続き、第一北上防止柵以北におけるマンガースの完全排除等、外来種対策の取り組んだ結果、ヤンバルクイナをはじめとする希少鳥類については、生息状況が回復傾向にある。

様式 1 （主な取組）



様式 1 （主な取組）

3 取組の検証（Check）		4 取組の改善案（Action）	
類型	内容	類型	内容
① 県の制度、執行体制（内部要因）	希少種の回復実態を正確に把握するためには、単一の手法に頼らず様々な調査手法を組み合わせ、長期にわたりモニタリングを継続していく必要がある。	① 執行体制の改善	限られた予算の範囲で専門家等の意見を聴取しつつ、調査対象種の選定や調査サイクルや調査手法等を検討し、効率的に調査を実施していく。
④ 社会・経済情勢の変化（外部環境の変化）	世界自然遺産地域の希少な野生生物を保護し、豊かな生態系を保全するためには、特定外来生物であるマングースをはじめとする外来種対策に取り組む必要がある。	④ 創意工夫による取組の改善（合理化・効率化）	世界自然遺産地域を含む、第一北上防止柵以北におけるマングースの完全排除等、関係機関と連携しながら外来種防除の取り組みを引き続き推進していく。

様式 1 （主な取組）

「主な取組」 検証票

施策展開	1-(2)-ア	自然環境・生物多様性の保全・継承	施 策	②希少野生動植物種や沖縄固有種の保護対策、外来生物対策の推進
			施策の小項目名	○希少生物種のロードキルの防止
主な取組	イリオモテヤマネコ等の交通事故の防止		対応する成果指標	重点対策種等の排除・根絶地域数
施策の方向	・アンダーパスの設置や側溝改良、ゼブラ舗装等によるイリオモテヤマネコやヤンバルクイナ等の希少生物種のロードキルを防止するとともに、橋梁など道路構造の改良についての検討に取り組みます。			

1 取組の概要（Plan）

主な取組(アクティビティ)	実施主体	年度別計画		
		活動指標(アウトプット)		
		R7	R8	R9
希少生物種であるイリオモテヤマネコ等の交通事故を防止するため、イリオモテヤマネコの道路上への進入を抑制するための仕組みの検討や、ドライバーへの普及啓発等に取り組む。	県	交通事故防止対策の取組の推進		
		モニタリング、検討会の開催、工法・候補地の検討(アンダーパスの設置)		
		アンダーパスの予備設計	アンダーパスの実施設計	設置工事の実施
担当部課【連絡先】	環境部自然保護課		【 098-866-2243 】	関連URL
				-



様式 1 （主な取組）

進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果	
令和7年度はアンダーパスの予備設計としていたが、これと同等の効果が見込まれる既設排水ボックスの活用に向け、関係機関調整を踏まえ、実現可能性のある5カ所を選定し、予備設計を行った。その他、侵入防止柵等の過年度対策のモニタリングを継続し、ヤマネコ目撃情報の関係機関との共有や普及啓発活動を進めた結果、ヤマネコの交通事故件数は過去3年間で1件となったことから、事業による対策は順調に進んでいると判断した。	
(2)これまでの改善案の反映状況	
令和7年度の取組改善案	反映状況
○現地未確認箇所の既設排水ボックス等の現地踏査を行い、構造や土砂の堆積状況等を把握し、イリオモテヤマネコの利用頻度が向上するように検討・対策を行う。	○既設排水ボックス等の現地踏査を行い、構造や土砂の堆積状況等を把握した。これに加え、関係機関と調整し、イリオモテヤマネコの利用頻度が向上するような改修工事の実現可能性のある既設排水ボックス5カ所を選定し、予備設計を行った。

3 取組の検証 (Check)		4 取組の改善案 (Action)	
類型	内容	類型	内容
② 他の実施主体の状況 (内部要因)	取組の効果もあり、ヤマネコの事故件数が低水準を推移していることから、現在の取組を継続的に実施する体制の構築を検討する必要がある。	② 連携の強化・改善	関係機関と調整し、現在の取組を継続的に実施する体制の構築を検討する。

様式 1 （主な取組）

「主な取組」 検証票

施策展開	1-(2)-ア	自然環境・生物多様性の保全・継承	施 策	②希少野生動植物種や沖縄固有種の保護対策、外来生物対策の推進
			施策の小項目名	○外来種の駆除並びに侵入・定着防止、飼い犬・飼い猫の野生化防止対策の強化
主な取組	重点対策種の防除実施		対応する成果指標	重点対策種等の排除・根絶地域数
施策の方向	・外来種の生息状況や外来種による被害状況等の調査を実施し、調査結果に基づく効果的な捕獲手法の実践等を通して、マングース等の外来種の駆除並びに侵入及び定着の防止を推進するとともに、ノイヌ・ノネコの捕獲と併せて、飼い犬・飼い猫の野生化防止対策の強化に取り組みます。			

1 取組の概要（Plan）

主な取組(アクティビティ)	実施主体	年度別計画		
		活動指標(アウトプット)		
		R7	R8	R9
沖縄県の生物多様性を保全するため、重点対策種(フイリマングース、グリーンアノール、タイワンスジオ、タイワンハブ、インドクジャク、ニホンイタチ等)の捕獲等を実施する。	県	外来種の駆除及び侵入・定着防止対策の実施		
		防除実施重点対策種数(内訳)		
		17種(継続17種)	17種(継続17種)	17種(継続17種)
担当部課【連絡先】	環境部自然保護課	【 098-866-2243 】	関連URL	—

様式 1 （主な取組）

2 取組の状況（Do）								
(1) 取組の進捗状況				(単位：千円)				
予算事業名		外来種対策事業			予算事業名		外来種対策事業	
主な財源	実施方法	R6年度 決算額		R7年度 決算見込額	R8年度			
					主な財源	実施方法	当初予算額	
一括交付金 （ソフト）	委託	424, 608		351, 721	一括交付金 （ソフト）	委託	379, 670	
令和7年度活動内容					令和8年度活動計画			
重点対策種の防除を実施した。そのうちハヤトゲフシアリについては防除実施後2年間確認がなかったことから令和8年3月に根絶を宣言した。					重点対策種の防除を実施する。また、新たな外来種について、必要に応じ、初期防除及びリストの見直し等を行う。			
予算事業名		マングース対策事業			予算事業名		マングース対策事業	
主な財源	実施方法	R6年度 決算額		R7年度 決算見込額	R8年度			
					主な財源	実施方法	当初予算額	
一括交付金 （ソフト）	委託	132, 035		100, 118	一括交付金 （ソフト）	委託	114, 794	
令和7年度活動内容					令和8年度活動計画			
沖縄島北部からのマングース完全排除及び同地域へのマングース流入リスク低減のため、捕獲に取り組んだ。併せて、希少種の回復状況を把握した。					沖縄島北部からのマングース完全排除及び同地域へのマングース流入リスク低減のため、捕獲に取り組んだ。併せて、希少種の回復状況を把握した。			

活動指標名	防除実施重点対策種数（内訳）		R7年度			進捗状況	活動概要
実績値	R5年度	R6年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B		重点対策種17種について、トラップを用いた捕獲やモニタリング、普及啓発等の防除を実施した。
	—	—	17種	17種（継続17種）	100.0%		

様式1（主な取組）

進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果	
目標値17種に対して実績値は17種であり、目標を達成したことから取り組みは順調に進捗している。	
(2)これまでの改善案の反映状況	
令和7年度の取組改善案	反映状況
○実施した防除対策について、外部有識者等による評価を行い、より効果的な防除対策を検討・実施する。 ○実施した防除対策について、外部有識者等による評価を行い、より効果的な防除対策を検討・実施する。	各外来種の防除計画等に基づき、防除を実施した。 また、有識者で構成される検討委員会等での意見を踏まえて、効果的な捕獲手法の検討等を行った。

3 取組の検証 (Check)		4 取組の改善案 (Action)	
類型	内容	類型	内容
① 県の制度、執行体制 (内部要因)	定着している外来種については、対策を継続しない場合は生息数及び生息範囲を拡大させるおそれがある。	① 執行体制の改善	実施した防除対策について、外部有識者等による評価を行い、より効果的な防除対策を検討し、実施する。
④ 社会・経済情勢の変化 (外部環境の変化)	沖縄島北部および西表島が世界自然遺産に登録されたことから、生物多様性を保全するため当該地域をはじめとした外来種対策がより重要となっている。	① 執行体制の改善	実施した防除対策について、外部有識者等による評価を行い、より効果的な防除対策を検討し、実施する。
① 県の制度、執行体制 (内部要因)	ニホンイタチやインドクジャク等の排除・根絶に向けた防除作業の効果を確認するためには、当該種の生息状況や捕獲効率等について把握する必要がある。	① 執行体制の改善	生息状況や捕獲効率等について、外部有識者等による評価を行い、より効果的な防除対策を検討し、実施する。

様式 1 （主な取組）

「主な取組」 検証票

施策展開	1-(2)-ア	自然環境・生物多様性の保全・継承	施 策	②希少野生動植物種や沖縄固有種の保護対策、外来生物対策の推進
			施策の小項目名	○外来種の駆除並びに侵入・定着防止、飼い犬・飼い猫の野生化防止対策の強化
主な取組	重点予防種のモニタリング実施		対応する成果指標	重点対策種等の排除・根絶地域数
施策の方向	・外来種の生息状況や外来種による被害状況等の調査を実施し、調査結果に基づく効果的な捕獲手法の実践等を通して、マングース等の外来種の駆除並びに侵入及び定着の防止を推進するとともに、ノイヌ・ノネコの捕獲と併せて、飼い犬・飼い猫の野生化防止対策の強化に取り組みます。			

1 取組の概要（Plan）

主な取組(アクティビティ)	実施主体	年度別計画		
		活動指標(アウトプット)		
		R7	R8	R9
沖縄県の生物多様性を保全するため、主要港湾や空港の周辺等において侵入監視モニタリングを実施し、重点予防種(ヒアリ等)の侵入・定着防止を図る。	県	重点予防種のモニタリング実施		
		重点予防種(ヒアリ)のモニタリング実施地点数(内訳)		
		8地点(継続8地点)	8地点(継続8地点)	8地点(継続8地点)
担当部課【連絡先】	環境部自然保護課	【 098-866-2243 】	関連URL	—

様式 1（主な取組）

2 取組の状況（Do）

(1) 取組の進捗状況

予算事業名

外来種対策事業

主な財源

実施方法

R6年度
決算額

R7年度
決算見込額

一括交付金
(ソフト)

委託

424, 608

351, 721

令和7年度活動内容

主要港湾や空港周辺等で重点予防種の侵入監視モニタリングを実施した結果、侵入・定着は確認されなかった。

予算事業名

外来種対策事業

R8年度

主な財源

実施方法

当初予算額

一括交付金
(ソフト)

委託

379, 670

令和8年度活動計画

主要港湾や空港周辺等で重点予防種の侵入監視モニタリングを実施し、侵入・定着がないか確認する。

活動指標名

重点予防種（ヒアリ）のモニタリング実施地点数（内訳）

R7年度

進捗状況

活動概要

実績値

R5年度

R6年度

実績値 (A)

目標値 (B)

達成割合
A/B

—

—

10地点

8 地点（継続 8 地点）

100. 0%

順調

県内の主要港湾や空港の周辺等において、ヒアリ等のモニタリング調査を実施した。

進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果

目標値 8 地点に対して実績値10地点であり、目標を達成したことから取り組みは順調に進捗している。

(2) これまでの改善案の反映状況

令和7年度の取組改善案

反映状況

○ヒアリやヒアリ等疑いのあるアリが発見された場合は、沖縄県ヒアリ対策総合マニュアル(ver2. 0)に基づき、環境省や港湾管理者等の関係機関と情報共有を図り、早期発見・早期防除に努める。
○ヒアリやヒアリ等疑いのあるアリが発見された場合は、沖縄県ヒアリ対策総合マニュアル(ver2. 0)に基づき、環境省や港湾管理者等の関係機関と情報共有を図り、早期発見・早期防除に努める。

沖縄県外来種対策行動計画に基づき、侵入リスクの高い主要港湾周辺等において、ヒアリ等のモニタリング調査を実施し、環境省や港湾管理者と情報共有したほか、ヒアリ同定研修会を開催するなど、情報共有を図った。

様式 1 （主な取組）



様式 1 （主な取組）

3 取組の検証（Check）		4 取組の改善案（Action）	
類型	内容	類型	内容
② 他の実施主体の状況（内部要因）	本県に未定着の外来種は、常に物流等による侵入・定着のリスクがある。	② 連携の強化・改善	ヒアリやヒアリ等疑いのあるアリが発見された場合は、沖縄県ヒアリ対策総合マニュアル(ver2.0)に基づき、環境省や港湾管理者等関係機関と情報共有を図り、早期発見・早期防除に努める。
④ 社会・経済情勢の変化（外部環境の変化）	沖縄島北部および西表島が世界自然遺産に登録されたことから、生物多様性を保全するため当該地域をはじめとした外来種対策がより重要となっている。	② 連携の強化・改善	ヒアリやヒアリ等疑いのあるアリが発見された場合は、沖縄県ヒアリ対策総合マニュアル(ver2.0)に基づき、環境省や港湾管理者等関係機関と情報共有を図り、早期発見・早期防除に努める。
① 県の制度、執行体制（内部要因）	ヒアリ等は常に侵入のリスクがあることから、効率的・効果的なモニタリング手法を用いる必要がある。	① 執行体制の改善	効率的・効果的なモニタリング手法について、港湾内でモニタリングを行っている環境省等と必要に応じ調整していく。

様式 1 （主な取組）

「主な取組」検証票

施策展開	1-(2)-ア	自然環境・生物多様性の保全・継承	施 策	②希少野生動植物種や沖縄固有種の保護対策、外来生物対策の推進
			施策の小項目名	○外来種の駆除並びに侵入・定着防止、飼い犬・飼い猫の野生化防止対策の強化
主な取組	飼い犬・飼い猫の野生化防止対策		対応する成果指標	重点対策種等の排除・根絶地域数
施策の方向	・外来種の生息状況や外来種による被害状況等の調査を実施し、調査結果に基づく効果的な捕獲手法の実践等を通して、マングース等の外来種の駆除並びに侵入及び定着の防止を推進するとともに、ノイヌ・ノネコの捕獲と併せて、飼い犬・飼い猫の野生化防止対策の強化に取り組みます。			

1 取組の概要（Plan）

主な取組(アクティビティ)	実施主体	年度別計画		
		活動指標(アウトプット)		
		R7	R8	R9
普及啓発イベントを実施し、動物遺棄の防止および動物愛護思想の涵養を図る。	県	飼い犬・飼い猫の野生化防止対策		
		普及啓発イベントの開催数(累計)		
		5回	5回(10回)	5回(15回)
担当部課【連絡先】	環境部自然保護課		【 098-866-2243 】	関連URL https://www.pref.okinawa.lg.jp/kurashikankyo/petgaiju/1018720/1019480.html

様式 1 （主な取組）

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況

予算事業名

動物適正飼養推進事業費

主な財源

実施方法

R6年度
決算額

R7年度
決算見込額

県単等

直接実施

24, 134

24, 999

令和7年度活動内容

県民に動物遺棄の防止を啓発するとともに、動物の適正飼養に関する知識やモラルの向上を図るため、動物の愛護および管理に関する普及啓発を行った。

予算事業名

動物適正飼養推進事業費

R8年度

主な財源

実施方法

当初予算額

県単等

直接実施

26, 517

令和8年度活動計画

県民に動物遺棄の防止を啓発するとともに、動物の適正飼養に関する知識やモラルの向上を図るため、動物の愛護および管理に関する普及啓発を行う。

活動指標名

普及啓発イベントの開催数（累計）

R7年度

実績値 (A)

目標値 (B)

達成割合
A/B

進捗状況

活動概要

実績値

R5年度

R6年度

—

—

5回

5 回

100. 0%

順調

捨て犬捨て猫防止キャンペーン、動物愛護図画コンクール、動物愛護街頭キャンペーン（本島、宮古、八重山）の計5回の普及啓発イベントを実施した。

進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果

普及啓発イベントの開催数5回の目標値に対し、計画どおり動物愛護関連行事を5回実施することができたため、順調と判断した。

(2) これまでの改善案の反映状況

令和7年度の取組改善案

反映状況

県民により広く普及啓発を図るため、市町村や教育機関等の関係機関との連携を深める。

市町村や教育機関等の関係機関と連携してイベントを実施することで、県民により広く普及啓発を図った。

様式 1 （主な取組）



様式 1 （主な取組）

3 取組の検証（Check）		4 取組の改善案（Action）	
類型	内容	類型	内容
① 県の制度、執行体制（内部要因）	より県内広域かつ動物愛護に関心のない県民に対しても普及啓発を行う必要があるため、普及啓発を図るための取り組みの強化・改善が必要である。	② 連携の強化・改善	市町村の担当者との会議を行い、普及啓発に向けた連携強化に取り組む。

様式 1 （主な取組）

「主な取組」 検証票

施策展開	1-(2)-ア	自然環境・生物多様性の保全・継承	施 策	②希少野生動植物種や沖縄固有種の保護対策、外来生物対策の推進
			施策の小項目名	○密猟・盗採等の防止
主な取組	沖縄島北部における密猟・盗採等の防止		対応する成果指標	重点対策種等の排除・根絶地域数
施策の方向	・密猟・盗採や廃棄物の投棄など人為的な影響の抑制に向けて、自然保護地域における巡回・巡視の強化に取り組めます。			

1 取組の概要（Plan）

主な取組(アクティビティ)	実施主体	年度別計画		
		活動指標(アウトプット)		
		R7	R8	R9
生物多様性の宝庫である沖縄島北部における希少種の密猟・盗採防止に向け、森林内パトロールや警察等関係機関と連携した合同パトロール、地域住民向けの報告会を行う。	県	希少種の密猟・盗採防止対策の実施		
		森林内のパトロールの実施数(累計)		
		180回	180回(360回)	180回(540回)
担当部課【連絡先】	環境部自然保護課		【 098-866-2243 】	関連URL
				—

(単位：千円)

予算事業名	希少種交通事故防止・密猟対策事業		
R8年度			
主な財源	実施方法	当初予算額	
一括交付金 (ソフト)	委託	30,000	
令和8年度活動計画			
森林内パトロール、警察等関係機関との合同パトロール、林道の夜間通行止め、地域住民向け報告会のほか、普及啓発に取り組む。			
予算事業名	ロードキル・密猟対策DX化業務		
R8年度			
主な財源	実施方法	当初予算額	
一括交付金 (ソフト)	委託	11,185	
令和8年度活動計画			
より効率的かつ実効性の高い対策を講じるため、デジタル技術を駆使した手法を導入し、ロードキルや密猟の脅威から野生生物の生息環境を保全する。			

活動指標名	森林内のパトロールの実施数 (累計)		R7年度			進捗状況	活動概要
	R5年度	R6年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B		
実績値	—	—	129回	180回	71.7%	やや遅れ	国頭村の森林内において、密猟対策パトロールを早朝・昼間・夜間の時間帯に分けて計129回実施した。

様式 1 （主な取組）

進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果	
森林内パトロールは目標回数を下回ったが、車両77台を確認したほか、採取用トラップを4個確認している。地域への報告会を1回実施し、密猟問題への理解を深めていた だくとともに、密猟防止を呼び掛けるポスターを制作し、国頭村、大宜味村、東村を中心に配付し、抑止を図った。	
(2)これまでの改善案の反映状況	
令和7年度の取組改善案	反映状況
○沖縄島北部地域の住民等との意見交換や監視カメラの確認等により、密猟行為や人流に関する最新の情報を掴み、国内外からの来訪者に対する密猟問題に関する情報発信を強化する。	地域住民向けの報告会を実施したほか、監視カメラ等に記録された怪しい動きについては、関係機関と連携して情報共有を図り、現場での警戒強化に役立てた。

3 取組の検証 (Check)		4 取組の改善案 (Action)	
類型	内容	類型	内容
⑦ その他内部要因 (改善余地の検証等)	パトロールによる抑止とトラップ等の確認作業に加え、常時監視を可能とする手法の導入を検討する必要がある。	④ 創意工夫による取組の改善(合理化・効率化)	カメラ記録の高度化や入林者に対する直接の反応による抑止を図るため、デジタル技術の導入に向けた検討を行う。

様式 1 （主な取組）

「主な取組」 検証票

施策展開	1-(2)-ア	自然環境・生物多様性の保全・継承	施 策	②希少野生動植物種や沖縄固有種の保護対策、外来生物対策の推進
			施策の小項目名	○普及啓発活動
主な取組	外来種対策に係る普及啓発活動の実施		対応する成果指標	重点対策種等の排除・根絶地域数
施策の方向	・本県の生物多様性に関する情報の一元化及び充実を図り、生物多様性に関するデータの利活用促進、研究及び普及に取り組むとともに、ホームページや各広報媒体を活用して、希少種の保護対策、外来種対策、密猟・盗採防止対策等の普及啓発活動を推進します。			

1 取組の概要（Plan）

主な取組(アクティビティ)	実施主体	年度別計画		
		活動指標(アウトプット)		
		R7	R8	R9
多くの県民が沖縄の生物多様性の豊かを認識し、外来種問題および対策の必要性について理解を深め、県民一丸となった取り組みにつなげるための普及啓発活動を実施する。	県	普及啓発活動の実施		
		企画展示、講演会等、普及啓発活動の実施数(累計)		
		5回	5回(10回)	5回(15回)
担当部課【連絡先】	環境部自然保護課		【 098-866-2243 】	関連URL
				—

様式 1 （主な取組）

2 取組の状況（Do）

(1) 取組の進捗状況

予算事業名

外来種対策事業

主な財源

実施方法

R6年度
決算額

R7年度
決算見込額

一括交付金
(ソフト)

委託

424, 608

351, 721

令和7年度活動内容

パネル展の開催や環境フェア等へ出展した。

予算事業名

外来種対策事業

R8年度

主な財源

実施方法

当初予算額

一括交付金
(ソフト)

委託

379, 670

令和8年度活動計画

パネル展の開催や環境フェア等へ出展する。

活動指標名

企画展示、講演会等、普及啓発
活動の実施数（累計）

R7年度

実績値 (A)

目標値 (B)

達成割合
A/B

進捗状況

活動概要

実績値

R5年度

R6年度

—

—

14回

5回

100. 0%

順調

夏休みこども自由研究イベントへの出展を1回、各地域の図書館等においてパネル展の開催や展示ボックスの設置を12回、環境フェアへの出展を1回行った。

進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果

目標値5回に対して実績値14回であり、目標を達成していることから、順調に進捗している。

(2) これまでの改善案の反映状況

令和7年度の取組改善案

反映状況

多様なイベントの開催やより興味を引く展示物の作成、特設サイト「外来種.com」の充実など、普及啓発の取組を引き続き行っていく。

イベント時に配布するグッズ等の作成や特設サイト「外来種.com」を更新した。

様式 1 （主な取組）



様式 1 （主な取組）

3 取組の検証（Check）		4 取組の改善案（Action）	
類型	内容	類型	内容
① 県の制度、執行体制（内部要因）	多くの県民が外来種問題を認識し、外来種被害予防三原則「入れない・捨てない・拡げない」行動を実践するための普及啓発を充実させる必要がある。	⑤ 情報発信等の強化・改善	多様なイベントの開催やより興味を引く展示物の作成、特設サイト「外来種.com」を充実するなど、普及啓発の取組を引き続き行っていく。
⑤ 県民ニーズの変化（外部環境の変化）	外来種対策意識の高い一般県民から、外来種を見つけた、外来種を捕獲した等の問い合わせが年間数十件ある。	⑤ 情報発信等の強化・改善	特設サイト「外来種.com」で、よくあるお問い合わせを充実するなど、普及啓発の取組を引き続き行っていく。

様式 1（主な取組）

「主な取組」検証票

施策展開	1-(2)-ア	自然環境・生物多様性の保全・継承	施 策	②希少野生動植物種や沖縄固有種の保護対策、外来生物対策の推進
			施策の小項目名	○普及啓発活動
主な取組	生物多様性地域戦略事業（生物多様性おきなわ戦略）		対応する成果指標	重点対策種等の排除・根絶地域数
施策の方向	・本県の生物多様性に関する情報の一元化及び充実を図り、生物多様性に関するデータの利活用促進、研究及び普及に取り組むとともに、ホームページや各広報媒体を活用して、希少種の保護対策、外来種対策、密猟・盗採防止対策等の普及啓発活動を推進します。			

1 取組の概要（Plan）

主な取組(アクティビティ)	実施主体	年度別計画		
		活動指標(アウトプット)		
		R7	R8	R9
生物多様性を保全・維持し、自然環境共生型社会の実現に向け、平成25年3月に策定した生物多様性おきなわ戦略について、現在の自然環境や社会状況等を踏まえた上で、有識者からなる委員会をもとに見直し第二次生物多様性おきなわ戦略を策定するとともに、生物多様性の普及啓発等を行う。	県	第二次生物多様性おきなわ戦略の推進		
		第二次生物多様性おきなわ戦略の見直し、普及啓発活動の実施数(累計)		
		第二次生物多様性おきなわ戦略の見直し	1回	1回(2回)
担当部課【連絡先】	環境部自然保護課	【 098-866-2243 】	関連URL	https://www.pref.okinawa.jp/kurashikankyo/shizenseibutsu/1018702/1038729/1039010.html

様式 1 （主な取組）

2 取組の状況（Do）

(1) 取組の進捗状況					(単位：千円)		
予算事業名	生物多様性地域戦略事業				予算事業名	生物多様性地域戦略事業	
主な財源	実施方法	R6年度 決算額	R7年度 決算見込額		R8年度		
					主な財源	実施方法	当初予算額
県単等	委託	18,781	15,504		県単等	委託	17,761
令和7年度活動内容					令和8年度活動計画		
第二次生物多様性おきなわ戦略を策定した。また、生きもの のいっせい調査等によって生物多様性の普及啓発等を行った。					生物多様性についての普及啓発等を実施する。		

活動指標名	第二次生物多様性おきなわ戦略 の見直し、普及啓発活動の実施 数（累計）		R7年度			進捗状況	活動概要
実績値	R5年度	R6年度	実績値 (A)	目標値 (B)	達成割合 A/B		第二次生物多様性おきなわ戦略を策定した。ま た、生きものいっせい調査等によって生物多様性 の普及啓発等を行った。
	—	—	第二次生物多様性おきなわ戦略の策定	第二次生物多様性おきなわ戦略の見直し	100.0%	順調	

様式1（主な取組）

進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果	
平成25年3月に策定した生物多様性おきなわ戦略を改定し、第二次生物多様性おきなわ戦略を策定したことから順調とした。	
(2)これまでの改善案の反映状況	
令和7年度の取組改善案	反映状況
○新戦略が県民に正しく伝わるよう、評価方法等の精査や図や表等を適切に使用するよう取り組む。	○新戦略が県民に正しく伝わるよう、評価方法等の精査や図や表等を適切に使用して策定した。

3 取組の検証 (Check)		4 取組の改善案 (Action)	
類型	内容	類型	内容
⑦ その他内部要因 (改善余地の検証等)	第二次生物多様性おきなわ戦略に改定したため、戦略を踏まえた沖縄県における生物多様性の保全と持続可能な利用に関する取り組みを普及啓発する必要がある。	④ 創意工夫による取組の改善(合理化・効率化)	生物多様性の保全と持続可能な利用に関する取り組みについては、他事業と連携し、周知機会を増やすことを検討する。

様式 1（主な取組）

「主な取組」検証票

施策展開	1-(2)-ア	自然環境・生物多様性の保全・継承	施 策	②希少野生動植物種や沖縄固有種の保護対策、外来生物対策の推進
			施策の小項目名	○普及啓発活動
主な取組	生物多様性地域戦略事業（生きもののいっせい調査）		対応する成果指標	重点対策種等の排除・根絶地域数
施策の方向	・本県の生物多様性に関する情報の一元化及び充実を図り、生物多様性に関するデータの利活用促進、研究及び普及に取り組むとともに、ホームページや各広報媒体を活用して、希少種の保護対策、外来種対策、密猟・盗採防止対策等の普及啓発活動を推進します。			

1 取組の概要（Plan）

主な取組(アクティビティ)	実施主体	年度別計画		
		活動指標(アウトプット)		
		R7	R8	R9
県教育庁と連携し、県内小学生を対象とした「生きもののいっせい調査」や一般県民を対象とした「フォトコンテスト」を実施し生物多様性の普及啓発活動を図る。	県	生物多様性の普及啓発		
		生きもののいっせい調査の実施数(累計)		
		1回	1回(2回)	1回(3回)
担当部課【連絡先】	環境部自然保護課【 098-866-2243 】		関連URL	https://www.pref.okinawa.jp/kurashikankyo/shizenseibutsu/1018702/1038729/1039010.html

様式 1 （主な取組）

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況

予算事業名

生物多様性地域戦略事業

主な財源

実施方法

R6年度
決算額

R7年度
決算見込額

県単等

委託

4, 499

4, 505

令和7年度活動内容

県内小学校の4～6学年全員を対象とした「生きもののいっせい調査」や一般県民を対象に「フォトコンテスト」を実施した。

予算事業名

生物多様性地域戦略事業

R8年度

主な財源

実施方法

当初予算額

県単等

委託

5, 577

令和8年度活動計画

県内小学校の4～6学年全員を対象とした「生きもののいっせい調査」や一般県民を対象に「フォトコンテスト」を実施する。

活動指標名

生きもののいっせい調査の実施数
(累計)

R5年度

R6年度

実績値

—

—

R7年度

実績値 (A)

目標値 (B)

達成割合
A/B

1回

1回

100. 0%

進捗状況

順調

活動概要

生物多様性の普及啓発と県内の生物多様性の状況把握の一助となるよう、県内小学校の4～6学年全員を対象に「生きもののいっせい調査」、一般を対象に「フォトコンテスト」を実施した。

進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果

計画通り「生きもののいっせい調査」及び「フォトコンテスト」を実施したことから順調とした。

(2) これまでの改善案の反映状況

令和7年度の取組改善案

反映状況

○本事業の周知については、他事業と連携し、周知機会を増やすことを検討する。

○本事業の周知について、他事業と連携し、周知機会を増やしたこともあり、令和6年度より「生きもののいっせい調査」への参加者数が増加した。

様式 1 （主な取組）



様式 1 （主な取組）

3 取組の検証（Check）		4 取組の改善案（Action）	
類型	内容	類型	内容
⑦ その他内部要因 （改善余地の検証等）	生物多様性の普及啓発を強化するために、小学生向けに分 かりやすく、楽しめるコンテンツを作る必要がある。	⑤ 情報発信等の強 化・改善	生物多様性の普及啓発を強化するために、小学生向けに分 かりやすく、楽しめるコンテンツを制作する。

様式 1（主な取組）

「主な取組」検証票

施策展開	1-(2)-ア	自然環境・生物多様性の保全・継承	施 策	③アジアの自然史科学の拠点「国立沖縄自然史博物館」の設置促進
			施策の小項目名	○国立沖縄自然史博物館の設置促進
主な取組	国立沖縄自然史博物館誘致に係るイベント開催		対応する成果指標	国立沖縄自然史博物館の誘致活動の認知度
施策の方向	・「国立沖縄自然史博物館」については、東アジア、東南アジア全体の自然史科学を支える研究及び人材育成の拠点となるばかりでなく、本県の生物多様性の豊かさやその重要性をより多くの人に発信し、自然環境の保全や沖縄観光の魅力の強化につながることや、県内の子どもたちの自然科学に対する関心を高め学力向上にも資することから、今後あらゆる機会を捉えて県内誘致に努めます。			

1 取組の概要（Plan）

主な取組(アクティビティ)	実施主体	年度別計画		
		活動指標(アウトプット)		
		R7	R8	R9
沖縄県に国立自然史博物館を設立・誘致するため、国への要請、シンポジウムや関係団体等への説明会など、機運醸成に向けた取組を実施する。	県	認知度の向上及び機運醸成を図るためのシンポジウム・企画展等周知啓発イベントの開催		
		シンポジウム等周知啓発イベントの開催数(累計)		
		5回	5回(10回)	5回(15回)
担当部課【連絡先】	環境部自然保護課	【 098-866-2243 】		関連URL https://www.pref.okinawa.lg.jp/site/kankyo/shizen/shizenshih-akubutsukan.html

様式 1 （主な取組）

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況

予算事業名

国立自然史博物館誘致推進事業

主な財源

実施方法

R6年度
決算額

R7年度
決算見込額

県単等

委託

31,584

91,517

令和7年度活動内容

県内シンポジウム、県内5圏域・県外2カ所での企画展や周知イベントを行った。

(単位：千円)

予算事業名

国立自然史博物館誘致推進事業

R8年度

主な財源

実施方法

当初予算額

県単等

委託

86,900

令和8年度活動計画

県内シンポジウム、県内外での企画展や周知イベントを5回行う。

活動指標名

シンポジウム等周知啓発イベントの開催数（累計）

R7年度

進捗状況

活動概要

実績値

R5年度

R6年度

実績値 (A)

目標値 (B)

達成割合
A/B

—

—

9回

5回

100.0%

順調

県内シンポジウム（石垣市）を11月9日に実施した。また、県内5圏域（6カ所）、県外2カ所（北海道・東京）で企画展を実施した。

進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果

令和7年度は、シンポジウム（1回）、企画展（8回）を合計9回開催し、目標値を上回った。

(2) これまでの改善案の反映状況

令和7年度の取組改善案

反映状況

県内市町村等に協力いただき、大型イベントと連携した展示や大型商業施設における開催など、普及啓発方法を工夫しながら、さらなる認知度の向上および機運醸成を図る。

小中高校生参加型シンポジウムや沖縄美ら海水族館、産業まつり、夏休みこども向けイベント、メインプレイス、市立図書館において企画展を実施し、認知度の向上および機運醸成を図った。

様式 1 （主な取組）



様式 1 （主な取組）

3 取組の検証（Check）		4 取組の改善案（Action）	
類型	内容	類型	内容
② 他の実施主体の状況（内部要因）	県内市町村等に協力を仰ぎ、引き続き普及啓発に取組、さらなる認知度の向上および機運醸成を図っていく必要がある。	② 連携の強化・改善	県内市町村等に引き続き協力を仰ぎ、これまでイベントを開催していない市町村において開催するなど普及啓発方法を工夫しながら、さらなる認知度の向上および機運醸成を図る。

様式 1 （主な取組）

「主な取組」検証票

施策展開	1-(2)-ア	自然環境・生物多様性の保全・継承	施 策	③アジアの自然史科学の拠点「国立沖縄自然史博物館」の設置促進
			施策の小項目名	○国立沖縄自然史博物館の設置促進
主な取組	国への要請		対応する成果指標	国立沖縄自然史博物館の誘致活動の認知度
施策の方向	・「国立沖縄自然史博物館」については、東アジア、東南アジア全体の自然史科学を支える研究及び人材育成の拠点となるばかりでなく、本県の生物多様性の豊かさやその重要性をより多くの人に発信し、自然環境の保全や沖縄観光の魅力の強化につながることや、県内の子どもたちの自然科学に対する関心を高め学力向上にも資することから、今後あらゆる機会を捉えて県内誘致に努めます。			

1 取組の概要（Plan）

主な取組(アクティビティ)	実施主体	年度別計画		
		活動指標(アウトプット)		
		R7	R8	R9
沖縄県に国立自然史博物館を設立・誘致するため、国への要請、シンポジウムや関係団体等への説明会など、機運醸成に向けた取組を実施する。	県	国立沖縄自然史博物館の設立に係る国への要請		
		国への要請回数(累計)		
		1回	1回(2回)	1回(3回)
担当部課【連絡先】	環境部自然保護課【 098-866-2243 】		関連URL	https://www.pref.okinawa.lg.jp/site/kankyo/shizen/shizenshih-akubutsukan.html

様式 1 （主な取組）

2 取組の状況（Do）

(1) 取組の進捗状況						(単位：千円)			
予算事業名		国立自然史博物館誘致推進事業				予算事業名		国立自然史博物館誘致推進事業	
主な財源	実施方法	R6年度 決算額	R7年度 決算見込額		R8年度				
					主な財源	実施方法		当初予算額	
県単等	委託	31,584	91,517		県単等	委託	86,900		
令和7年度活動内容					令和8年度活動計画				
骨太の方針への要請や沖縄および北方対策担当大臣への要望等、あらゆる機会をとらえて国へ要請した。					あらゆる機会をとらえて国へ要請する。				

活動指標名	国への要請回数（累計）		R7年度			進捗状況	活動概要
実績値	R5年度	R6年度	実績値 (A)	目標値 (B)	達成割合 A/B		
	—	—	4回	1回	100.0%	順調	骨太の方針への要請、沖縄および北方対策担当大臣への要望など、国への要請を4回行った。

進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果	
令和7年度は国への要請を4回行い、目標を上回った。	
(2) これまでの改善案の反映状況	
令和7年度の取組改善案	反映状況
誘致実現に向けて、国等への働きかけや関係者との意見交換等を行う。	機会を捉え、4回の要請をした。

様式 1 （主な取組）



様式 1 （主な取組）

3 取組の検証（Check）		4 取組の改善案（Action）	
類型	内容	類型	内容
② 他の実施主体の状況（内部要因）	国等への働きかけに向けた、関係省庁ヒアリングや関係者との意見交換の不足が課題である。	② 連携の強化・改善	関係省庁へのヒアリングを実施し、国の動向等を把握する。

様式 1 （主な取組）

「主な取組」 検証票

施策展開	1-(2)-ア	自然環境・生物多様性の保全・継承	施 策	③アジアの自然史科学の拠点「国立沖縄自然史博物館」の設置促進
			施策の小項目名	○国立沖縄自然史博物館の設置促進
主な取組	市町村、民間等によるシンポジウム等の取組		対応する成果指標	国立沖縄自然史博物館の誘致活動の認知度
施策の方向	・「国立沖縄自然史博物館」については、東アジア、東南アジア全体の自然史科学を支える研究及び人材育成の拠点となるばかりでなく、本県の生物多様性の豊かさやその重要性をより多くの人に発信し、自然環境の保全や沖縄観光の魅力の強化につながることや、県内の子どもたちの自然科学に対する関心を高め学力向上にも資することから、今後あらゆる機会を捉えて県内誘致に努めます。			

1 取組の概要（Plan）

主な取組(アクティビティ)	実施主体	年度別計画		
		活動指標(アウトプット)		
		R7	R8	R9
沖縄県に国立自然史博物館を誘致するため、市町村や民間等において、機運醸成に向けた取組を実施する。	市町村、民間等	国立自然史博物館の設立・誘致に向けた市町村や民間等における取組		
		周知イベント等の開催数(累計)		
		1回	1回(2回)	1回(3回)
担当部課【連絡先】	環境部自然保護課【 098-866-2243 】		関連URL	https://www.pref.okinawa.lg.jp/site/kankyo/shizen/shizenshih-akubutsukan.html

様式 1 （主な取組）



様式 1 （主な取組）

3 取組の検証（Check）		4 取組の改善案（Action）	
類型	内容	類型	内容
② 他の実施主体の状況（内部要因）	引き続き市町村や民間等と連携し、認知度の向上および機運醸成を図る必要がある。	② 連携の強化・改善	市町村や関係団体等と連携して、認知度の向上および機運醸成を図る。